

資料4
科学技術・学術審議会学術分科会
学術情報委員会（第14回）
平成30年11月29日（木）



日本文学とNIJL-NW project

国文学研究資料館
教授 山本 和明

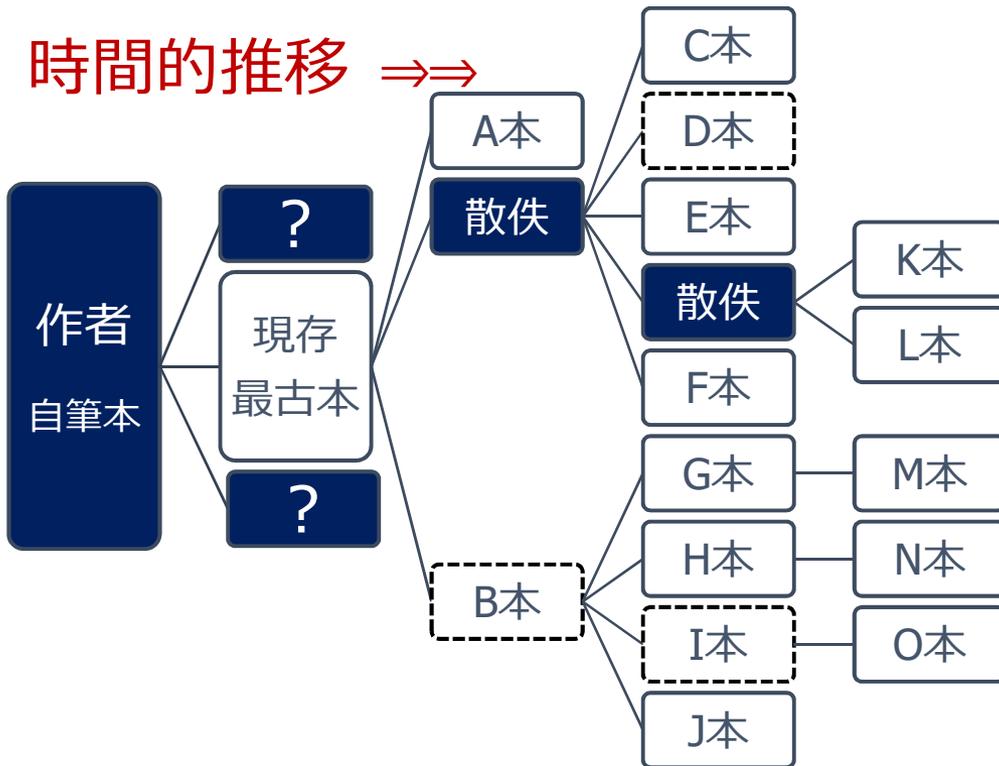


<http://www.nijl.ac.jp/>



日本文学研究の特質

その多くは書かれたモノを研究



※写すたびに**異本が派生**
(目移、誤写)

※完本残存とは限らない

※意味を考えず書写多
(可読性を無視)

※時代の推定

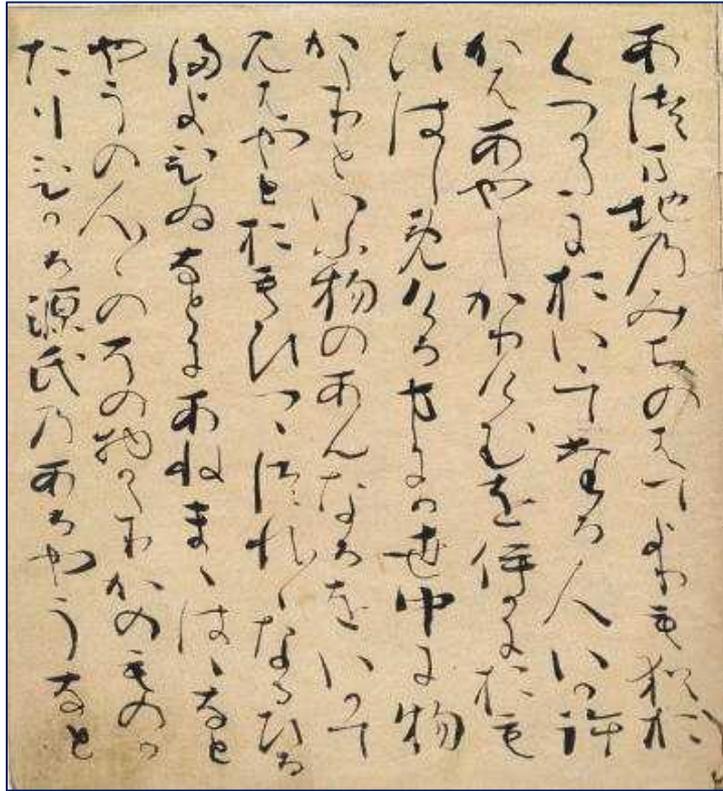
悉皆調査が基本

〈書物〉を対象とする研究

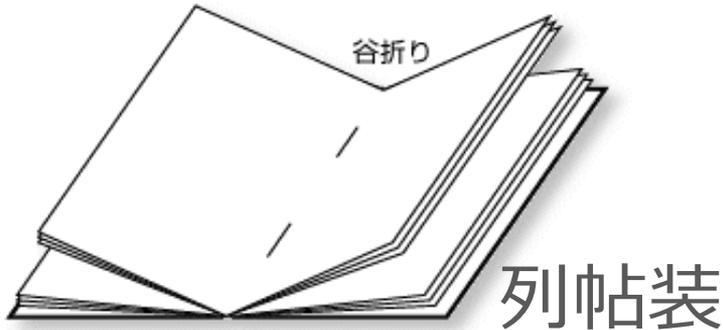
⇒**足で稼ぐ学問**：書物を見て回り、書物を位置づける

⇒研究の基本！ とはいふものの…

たとえば「更級日記」（菅原孝標女・平安時代）の場合



御物本 藤原定家筆「更級日記」複製



【有名なエピソード】 明治時代までは難解な書物



大正13年、現宮内庁所蔵本を確認し、その
綴じ間違い（錯簡）が全ての写本の誤りの根源であったことを発見

すなわち、今日伝わる更級日記の
伝本の全て、藤原定家筆写本が
もとであることを確認。

研究では、**教科書に掲載されるような
本文は存在しない！**

濁点や句読点、カギ括弧、漢字等
「釈文」といい、研究の成果

版本（印刷本）でも同じとは限らない



本は**閲覧してみても初めて判る**ことが多い
最善本を求めたいという欲望

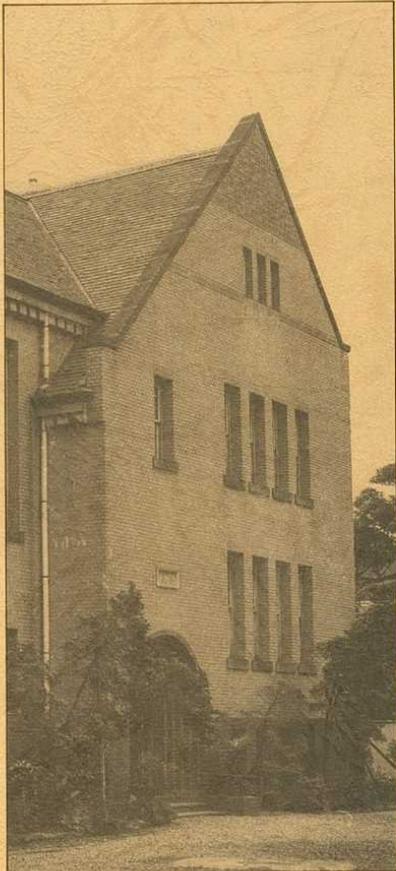
国文学やぶにらみ

今井源衛著



和泉選書

訪書の旅
集書の旅



かつて

研究者にまず求められた
のは、**文庫訪問の心得**
であった **《訪書・集書》**

いまだに

個人蔵や私立の機関等では
資料閲覧の叶わぬ処も
多い 所蔵 = 財産

【資料入手の難しさ】

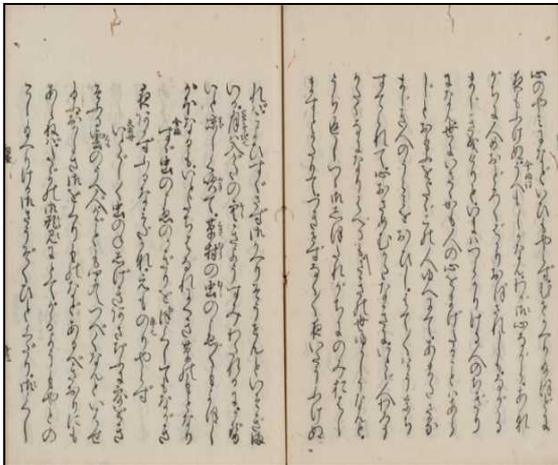
書写から撮影へ



国文学研究資料館 (NIJL)

日本文学及び関連資料の
専門的調査研究機関 (昭47年～)

● 主な収集 (所蔵) 資料… **各地の図書館本の撮影複写**
(概数・2018年3月末現在)



古典籍(原本)
1万8000点

マイクロ資料 (国内収集)
21万点

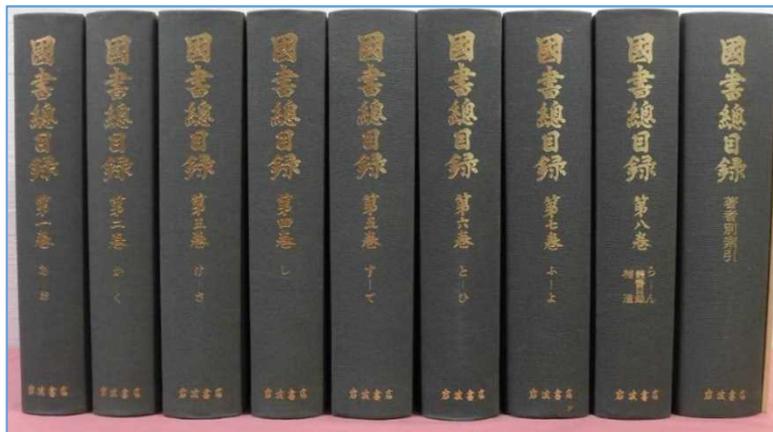
紙焼写真本
8万6000冊

■ 活字本・影印本等 **19万冊**…日本文学関係の学術図書や雑誌も所蔵

ナショナルカタログ「国書総目録」の著作権を継承

書誌所在情報を集約する事業

国書総目録を継承し、
古典籍総合目録刊行（冊子）、
さらに
日本古典籍総合目録DB作成



枕草子まくらぐさ ⑧清少納言・清少納言枕草子
・枕草紙 ⑨随筆 ⑩清少納言 ⑪国会（異本、
一冊）・内閣（三巻本、三冊）・静嘉（三巻本、嘉
永二写三冊）（異本枕草紙）、塚本、下巻一冊

国文研の強み！当館が管理し、修正していく 著作コントロール自体が〈情報〉

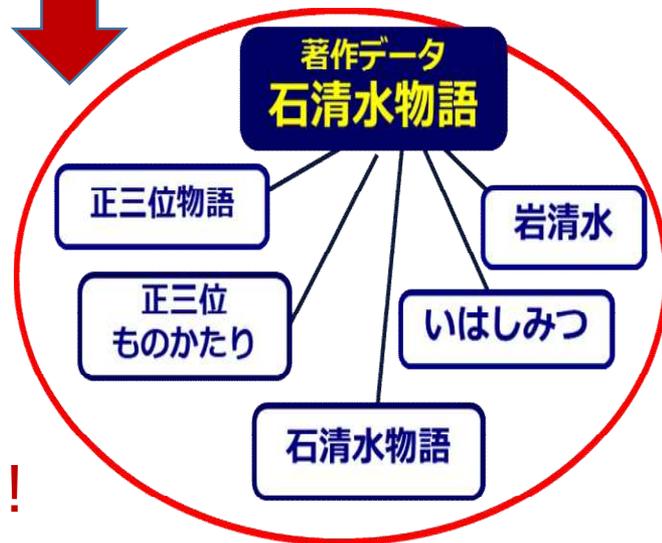
【特長】責任もって著作コントロール

古典籍などは書名のゆれも多く、各図書館の
登録書名が異なると、見つけることが難しい



国文研…各図書館所蔵作品について
著作コントロールをおこなっている。
ひも付けることで一連の書物が確認可能！

世界からみても画期的



従来型日本文学（人文学）研究の現実

検証されない「日本文学（人文学）研究」

日本文学研究における基盤データは「書物」



資料の「断片・引用」の上に論を構築する学問



検証するにも同様の閲覧手続きが必要

検証を怠りがちな現実

研究も活字本だけに偏る

江戸時代

明治時代

戦後

現代

写本

版本 印刷

活字本

新旧漢字

デジタル

情報の淘汰がなされてきた日本

限られた《情報》のなかでしか物事をみていない！

立ちはだかる「障壁」

【一例】

- 存在を知らながら資料を見ることの出来ぬもどかしさ **(東京一極集中)**
- 研究のために**手順（手続）に奔走** 撮影・閲覧許可
図書館側の苦悩（見に来てほしい・勝手に画像を使われたら困る）

モノは不変→デジタル画像だけでも自由に使えたら

プロジェクトが目指した方向性 オープン

- **持つ者持たざる者の差を縮める**（金銭・時間・情報）
- **あらゆる分野で対等な研究環境の確保**

特に海外研究者に向けて

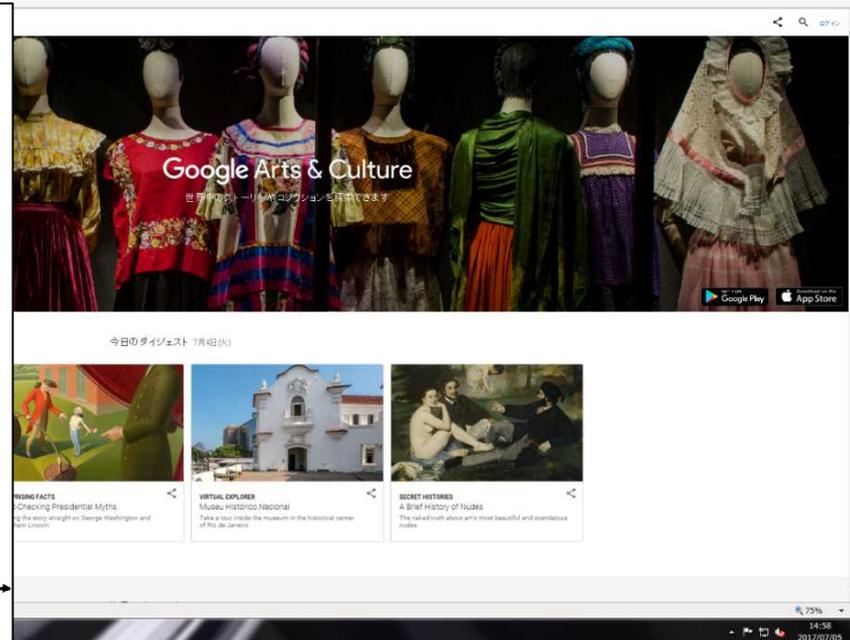
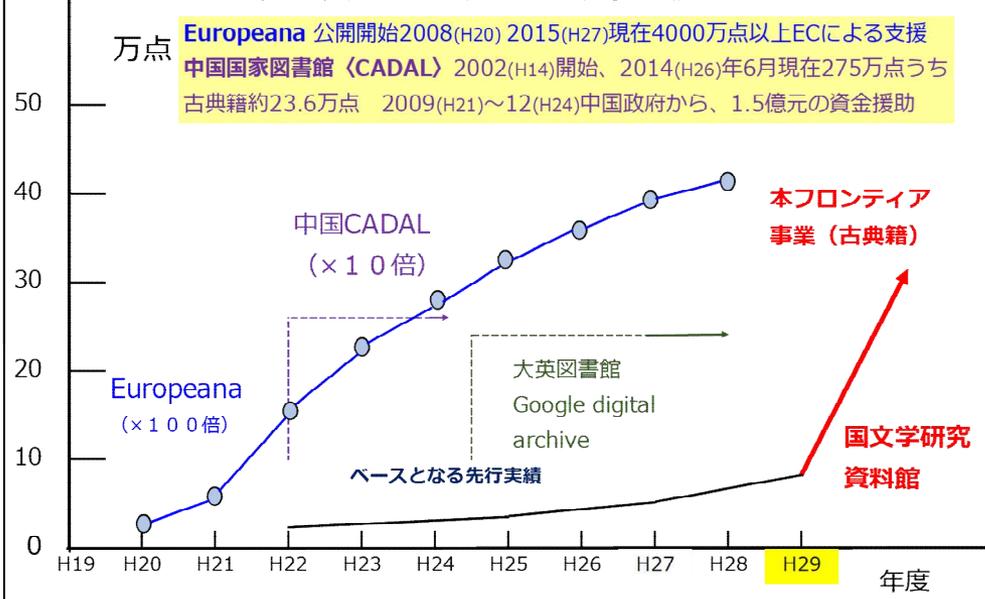
近年：Web環境・デジタル化が変える研究手法

乗り遅れると世界から「研究対象」ですらなくなる

資料を秘蔵（＝死蔵）するニッポン



デジタル・アーカイブ化進捗状況



2014年4月から

人文社会科学分野初の大規模学術フロンティア促進事業

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

略称：**歴史的典籍NW事業 (NIJL-NW project)**

がスタート

担当部署：館内に**古典籍共同研究事業センター**を設置

大規模学術フロンティア促進事業

三つの謎（消えた反物質、暗黒物質の正体、質量の起源）の解明に挑戦

スーパーBファクトリーによる新しい物理法則の探求
〔高エネルギー加速器研究機構〕

宇宙から反物質が消え、物質のみが存在しているという謎について、2008年のノーベル物理学賞を受賞した小林・益川両氏の「CP対称性の破れ」理論を、世界最高性能の電子・陽電子衝突型加速器で実証。今後は、宇宙の謎（「消えた反物質」「暗黒物質の正体」「質量の起源」）の解明など、世界を先導する新たな物理法則の発見を目指す。



アインシュタインが予言した重力波（時空の歪み）観測による重力波天文学の創成

大型低温重力波望遠鏡（KAGRA）計画
〔東京大学宇宙線研究所〕

一辺3kmあるL字型のレーザー干渉計を神岡鉱山地下に設置し、日本の独創的な技術を用いて、アインシュタインが予言した「重力波」を直接観測する。観測データの分析・研究を通じ、ブラックホールの誕生の瞬間や未知の天体及び現象の解明を目指すとともに、日・米・欧による国際ネットワーク構築に参画し、重力波天文学の創成を目指す。



歴史的典籍を活用した異分野融合研究の醸成と日本文化の国際的発信

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画
〔人間文化研究機構国文学研究資料館〕

人文学分野の長年の課題である研究の細分化、従来型の研究手法からの脱却を図るため、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク」を構築することによって、歴史学、社会学、哲学、医学などの諸分野の研究者が多数参画する異分野融合研究を醸成し、幅広い国際共同研究の展開を目指す。

